

指定管理者評価シート

事業名	札幌芸術の森等運営管理費	所管課（電話番号）	市民文化局文化部文化振興課（211-2261）
-----	--------------	-----------	-------------------------

I 基本情報

1 施設の概要			
名称	札幌芸術の森 本郷新記念札幌彫刻美術館	所在地	【札幌芸術の森】南区芸術の森2丁目 【札幌彫刻美術館】中央区宮の森4条12丁目
開設時期	【札幌芸術の森】昭和61年7月 【札幌彫刻美術館】昭和56年6月	延床面積	【札幌芸術の森】389,653.82㎡（敷地面積） 【札幌彫刻美術館】本館374.10㎡、記念館437.07㎡
目的	【札幌芸術の森】 芸術文化都市さっぽろのシンボルとして、個性ある新しい札幌文化を育てることを目指し、「制作・研修機能」、「情報・交流機能」、「鑑賞・発表機能」を持つ新しい芸術文化の場を創出し、札幌が誇りとする豊かな大自然と、都市、芸術、文化が調和した環境の形成を目的とする。 【札幌彫刻美術館】 本市ゆかりの彫刻家である本郷新の業績を顕彰するとともに、本市における彫刻を中心とした美術の振興を図り、市民の文化芸術活動の発展に寄与することを目的とする。		
事業概要	【札幌芸術の森】 札幌芸術の森園内各施設の管理運営、札幌芸術の森園内各施設を活用した各種芸術文化振興のための主催事業の実施。 【札幌彫刻美術館】 美術館周辺に複数の野外彫刻が点在する、生地札幌にアトリエ・ギャラリーとして建てた邸宅であった記念館と、本館を拠点に、美術に関する展覧会及び美術振興のための主催事業の実施並びに施設の管理運営。		
主要施設	【札幌芸術の森】 芸術の森センター、札幌芸術の森野外美術館、佐藤忠良記念子どもアトリエ、札幌芸術の森美術館、アートホール、工芸館、各種工房、各種アトリエ、有島武郎旧邸、野外ステージ等 【札幌彫刻美術館】 本館：ギャラリー、展示室1～5、研修室、屋外展示スペース 記念館：展示室1～4、ロビー		
2 指定管理者			
名称	公益財団法人札幌市芸術文化財団		
指定期間	令和5年4月1日～令和10年3月31日		
募集方法	非公募 非公募の場合、その理由：札幌芸術の森は札幌市における文化芸術振興の中核となる施設の1つであり、指定管理者には施設の特性を生かした多様な事業を継続して実施するための専門的知識や経験、幅広いネットワークが必要であるとともに、管理運営に当たっては、長期的な視野に立った継続的な事業運営や人材育成、ノウハウの蓄積などが特に必要となるほか、施設における事業内容の企画立案等を本市と指定管理者とが一体となって行う必要があることなどから、非公募とした。 彫刻美術館は、(財)札幌彫刻美術館と(財)札幌市芸術文化財団との統合の経緯から、芸術の森との一体的な管理が必要であり、団体と施設の関係が密接不可分にあること、また、施設における事業内容の企画立案等を本市と指定管理者とが一体となって行う必要があることなどから、非公募とした。		
指定単位	施設数：2施設 複数施設を一括指定の場合、その理由：施設の設置目的が類似し、事業領域が関連している札幌芸術の森と札幌彫刻美術館を一体的に管理していくことにより、管理面での経費節減効果が期待できるとともに、両施設の連携を更に深め、より魅力的な事業や、美術の普及振興を図ることが可能であることから、札幌芸術の森と彫刻美術館を一括し管理している。		
業務の範囲	施設維持管理業務、貸館業務（利用料金制度）、施設における事業の計画及び実施に関する業務		
3 評価単位	施設数：2施設 複数施設を一括評価の場合、その理由：2施設を一体的に管理しており、指定管理費についても両施設で一体となっていることから、一括評価としている。		

II 令和7年度管理業務等の検証

項 目	実施状況	指定管理者 の自己評価	所管局の評価
1 業務の要求水準達成度			
(1) 統括管理業務	▽ 管理運営に係る基本方針の策定 【札幌芸術の森】 施設の設置目的と財団が策定した中期経営計画に基づき、第4期の基本方針を継承しつつ、検証、見直しを行い、札幌市文化芸術基本計画やその他の文化施策に対応し、次の5つの基本方針を策定している。 ①あらゆる人々が文化芸術に容易に触れることができる多様な事業展開（社会包摂の実践） ②様々なアートシーン、ステップに応じた担い手の育成・支援（すそ野拡大、人材育成） ③新たな切り口による魅力発信とにぎわいの創出（施設の利用促進） ④人々が集い交流する場、地域拠点としての機能の充実（場の提供、交流の輪の創出） ⑤安全で利用しやすい施設づくり（利用者目線の施設整備） 【本郷新記念札幌彫刻美術館】 札幌出身の彫刻家・本郷新の顕彰及び彫刻を中心とした美術の振興を図り、本郷新の残した作品・施設や生前の意思を引き継ぎつつ、幅広い年齢層を対象に美術館の運営をさらに進展させるため、財団が策定した中期経営計画に基づき、次の4つの基本方針を策定している。 ①本郷新作品と関連資料の収集・保管、調査・研究、展示・公開 ②彫刻を中心とした芸術文化の魅力を積極的に発信 ③利用者の拡大と次代の担い手の育成 ④市民に開かれ、立地環境を生かした施設運営 ▽ 平等利用に係る方針等の策定と取組実績 【札幌芸術の森】 利用受付は、利用者間の公平を図る観点から、受付開始日、締切日及び開始・終了時刻を定めているほか、受付は先着順とし、全ての利用者に対して公平な受付業務を行った。 受付の流れ、関連規則、施設の空き状況についても、分かりやすく十分に説明をするほか、ホームページ上で施設の空き状況を確認できるようにしている。 【本郷新記念札幌彫刻美術館】 平等利用を確保するために、その方針及び取組項目を検討するとともに、研修会等を通じて、留意事項等について職員相互に基本的な考え方や心構えを確認した。	札幌芸術の森の設置目的を実現するための基本方針とすることができた。 本郷新記念札幌彫刻美術館の設置目的を実現するための基本方針とすることができた。	A B C D 両施設とも、運営協議会や来館者アンケートによる意見を踏まえた業務改善を図り、サービスの向上に努めている。 また、施設予約システムの更新やノートPC化によるDX推進で利便性や機動性を高めたほか、施設の機能や性質を踏まえた継続的な節電対策など環境に配慮した取組も行われており、本市の要求水準を満たす適切な管理が行われている。 関連規則に従い、利用者への公平性を保ちながら受付業務を行うことができた。 関連規則に従い、利用者への公平性を保ちながら受付業務を行うことができた。

▽ 地球温暖化対策及び環境配慮の推進 【札幌芸術の森】 「札幌市生活環境の確保に関する条例」に基づき、不要な電気・水・ガス・灯油等の節約に努め、二酸化炭素排出の抑制に取り組んだ。 ▼ 冷暖房について 夏場28℃、冬場24℃の温度設定で継続的に節電を実施した。また、職員を対象にクールビズを促進した。 ▼ 節電について ・従来より実施しているセンター事務所の照度50%設定やセンター、アートホールロビー等の照明設備の間引き点灯を継続して実施した。センター事務所では休憩時間の照明を必要最低限なレベルまで間引き節電に努めた。 ・電力需要がひっ迫する野外ステージの大型イベントの開催時に主催者手配により発電機を用意し、電力デマンドのピークカットに努めた。 ・余分な電化製品のコンセントを抜く等、待機電力の削減に努めた。 【本郷新記念札幌彫刻美術館】 「札幌市生活環境の確保に関する条例」に基づき、不要な電気・水・ガス・灯油等の節約に努め、二酸化炭素排出量の低減に努めた。	省エネについては照明設備の間引き点灯、冷暖房の一部カットなどの対策を行い、特に電力は、日頃から使用量の管理に務めた。引き続き、職員の意識を高め、省エネルギーの促進に努める。 暖房器具・照明等の使用を抑え、節電に努めることができた。
▽ 管理運営組織の確立（責任者の配置、組織整備、従事者の確保・配置、人材育成） 【札幌芸術の森】 ▼ 管理業務の一層の効率的運用、中長期での組織運営のあり方などについて検討し、必要に応じた適切な採用・適正部署への配置を行った。 ▼ 統括責任者として芸術の森事業部長を、職務代理者として芸術の森事業部管理課長を配置している。 ▼ 芸術の森美術館に、学芸員有資格を条件として採用した職員8人を配置している。 ▼ 各職員の習熟度に応じた計画的な研修を行い、スキルアップに努めた。 ・ 4～5月 新採用研修、コンプライアンス研修 ・ 6月 普通救命（AED）講習 ・ 7月 安全運転講習 ・ 7～9月 情報セキュリティポリシー研修 ・ 12月 管理職マネジメント研修 ・ 2月 コンプライアンス研修 ・ 通年 防火管理講習 職長・安全衛生管理者講習	配置計画に関しては、職員との面談等を通じ適性を考慮しながら適切な人員配置を行った。業務の効率化に加え、職員の業務に対する意識向上の動機づけを図ることができた。 また、前年度に引き続き、全職員必須研修として、コンプライアンス研修を行うなど、個人情報の取扱い及び服務規律の確保について職員の意識向上に努めた。

【本郷新記念札幌彫刻美術館】

▼ 統括責任者として彫刻美術館課長を、職務代理者として彫刻美術館業務係長を配置しているほか、業務分担、連絡系統等を定めた。

▼ 本郷新記念札幌彫刻美術館に、学芸員の資格を有する職員2人を配置している。

▼ 各職員の習熟度に応じた研修を計画的に行い、スキルアップに努めた。札幌芸術の森との合同で職員研修を行ったほか、館独自で現場研修や各展覧会ごとにパート職員を含めた研修を実施した。

- ・ 4～5月
新採用研修、コンプライアンス研修
- ・ 6月
普通救命（AED）講習
現場研修「山内壮夫」展
- ・ 7月
安全運転講習
- ・ 7～9月
情報セキュリティポリシー研修
- ・ 9月
現場研修「生命体の存在」展
- ・ 10月
現場研修「彫刻三昧」展
- ・ 12月
管理職マネジメント研修
自衛消防訓練
- ・ 2月
現場研修「かく語りき本郷新」展
コンプライアンス研修
- ・ 3月
個人情報の取扱いに関する研修

▽ 管理水準の維持向上に向けた取組

【札幌芸術の森】

▼ 財団内LANによるグループウェアを活用し、事業部内及び財団全体の職員間で情報共有を行った。併せて、令和7年度は財団4施設において施設予約システムの更新・統一を行い、利用者の利便性向上を図った。

▼ 園内に点在する施設間においても、来園者と接する機会の多い委託業者（受付、警備、施設設備管理、清掃）と職員間での情報共有ツールとして、上記グループウェアや内線、携帯電話による連絡網もあわせて活用した。

▼ 安定した管理体制と来園者へのサービス向上を目指し、職員と常駐委託業者が事故や問題点、今後の予定など、お客様対応に必要な情報の共有や意見交換を行うための会議を毎週、実施した。

▼ 令和7年度に職員が使用する業務用端末をデスクトップ型PCからノートブック型PCに変更したことに伴い、情報セキュリティポリシーに照らし合わせて、随時、会議の場への端末の持ち込み運用などを行った。これにより、議事録作成や情報参照の円滑化を実現させ、ペーパーレス化の推進や、機動性の向上に寄与することができた。

配置計画に関しては、職員との面談等を通じ適性を考慮しながら適切な職員配置を行った。

各職員の資質の向上のため、機会をとらえて研修会や講習会への参加を進めるとともに、実務を通じた現任訓練も必要の都度実施した。

美術館内の会議を適切に実施し、事業内容や各担当業務に関する情報の共有を図った。

また、前年度に引き続き、全職員必須研修として、コンプライアンス研修を行うなど、個人情報の取扱い及び服務規律の確保について職員の意識向上に努めた。

事業部間や事業部内での情報共有をスムーズに行うことで、来園者へのよりきめ細かな対応と事前の利用者への確認等を円滑に行うことができた。集客イベント等の情報共有を園全体にもれなく行うことができ経緯を残せるため、園全体での混雑状況の把握や広報に生かすことができた。

【本郷新記念札幌彫刻美術館】

▼ 財団内LANによるグループウェアを活用し、美術館内及び財団全体での情報共有を行った。

事業部間や事業部内での情報共有をスムーズに行うことで、来館者へのよりきめ細かな対応を行うことができた。

▽ 第三者に対する委託業務等の管理（業務の適正確保、受託者への適切監督、履行確認）

【札幌芸術の森】

▼ 計画書、仕様書に基づき、清掃、庭園管理等の業務を専門業者へ再委託し、適正な業務遂行を実施した。

規程類に基づき、適切な契約を行った。

▼ 第三者に対する委託に関して、入札等による適切な契約を行うことにより、経費節減と業務内容の充実と向上に努めた。なお、経費節減等が期待できる一部の業務については、複数年契約を締結した。

▼ 受託者の業務については立会を行うとともに作業完了報告書の確認と業務内容の検査を実施し、適正な業務を遂行させることができた。

【本郷新記念札幌彫刻美術館】

▼ 計画書、仕様書に基づき、清掃、庭園管理等の業務を専門業者へ再委託し、適正な業務遂行を実施した。

規程類に基づき、適切な契約を行った。

▽ 札幌市及び関係機関との連絡調整（運営協議会等の開催）

【札幌芸術の森】

▼ 札幌芸術の森運営協議会の開催

開催回	協議・報告内容
第1回 (6月24日)	(1) 令和6年度管理運営業務の報告について (2) 令和7年度管理運営業務の経過報告について (3) その他
第2回 (9月17日)	(1) 管理運営業務の経過報告について (2) その他
第3回 (12月17日)	(1) 管理運営業務の経過報告について (2) その他
第4回 (3月18日)	(1) 管理運営業務の経過報告について (2) その他

<協議会メンバー>

地 域：芸術の森地区まちづくりセンター所長

利用者：施設利用者

有識者：放送局、コンベンションビューロー、大学教授、MICE団体

ボランティア団体：野外美術館解説ボランティア

札幌市：市民文化局文化部長

指定管理者：芸術の森事業部長

当施設の運営について、主催事業や貸施設、広報等の多岐にわたる項目について、様々な分野の方々からご意見をいただいた。

▼ 政策推進連絡会の開催

開催回	協議・報告内容
第1回 (8月7日)	(1) 各施設の重点取組事項について (2) 議題 ①令和8年度予算要求に向けて ②出資団体評価について ③委託費補填の次年度以降の予算について 当財団における委託費補填の取扱と次年度以降について ④50万円以上の修繕・設備投資の取扱について 当財団の修繕・設備投資の規模と今後の財団収支の影響について (3) その他意見交換
第2回 (1月14日)	(1) 今年度の予算執行見込と次年度予算について (2) 次年度の事業展開について (3) 令和7年度の運営状況について(進捗報告) (4) 令和8年度の運営予定について (5) 運用改正等 (6) 令和8年度文化部予算について (7) 料金改定について (8) その他

【本郷新記念札幌彫刻美術館】

▼ 本郷新記念札幌彫刻美術館運営協議会の開催

開催回	協議・報告内容
第1回 8月28日	・令和6年度事業報告 ・令和7年度事業経過報告(4～7月)
第2回 12月9日	・令和7年度事業経過報告(8～11月) ・令和8年度事業企画状況
第3回 3月24日	・令和7年度事業経過報告(12～3月) ・令和8年度事業企画状況
<協議会メンバー> 利用者団体：札幌市立大倉山小学校PTA 利用者団体：札幌彫刻美術館友の会会長 地元自治会：宮の森明和会会長 学識経験者：札幌市立三角山小学校校長 学識経験者：彫刻家 札幌市：市民文化局文化部文化振興課課長 指定管理者：芸術の森事業部彫刻美術館課長	

所管部局と直接に協議、情報交換ができる機会を有意義に活用し、次年度の事業展開、収支状況、現在抱えている問題などを共有することができた。

事業運営に関すること、学校教育との関わり、バリアフリーの視点、地域への情報提供などの点で様々な意見や評価をいただいた。
意見をもとに、美術館自体を知ってもらうためのポスター制作や、学校関係者への情報提供ルートを活用した広報など、事業展開に積極的に生かした。

▼ 政策推進連絡会の開催

開催回	協議・報告内容
12月25日	(1) 指定管理者より ア 札幌芸術の森事業部（彫刻美術館）における今年度の予算執行見込みと事業実施状況について イ 次年度の事業展開について (2) 文化部より 令和8年度文化部予算について

▽ 財務（資金管理、現金の適正管理）

【札幌芸術の森、本郷新記念札幌彫刻美術館】

▼ 資金管理については、指定管理業務、自主事業ごとの区分経理を実施しており、公認会計士による外部会計監査を導入している。また、内部監査やセルフモニタリングにより、当財団管理施設をまたいだ相互的なチェック体制を導入している。

▼ 現金等の取扱いについては、現金取扱要綱を整備しており、出納員及び分任出納員による一元管理を行っている。また、複数職員でのチェックを行うことで、事故防止に努めた。

資金管理、現金等の取扱いについては、管理体制を整備することにより、チェック機能を確保した。

▽ 要望・苦情対応

【札幌芸術の森】

▼ お客様からの要望・苦情があった場合には、文書や財団内LANによるグループウェア等を活用し、担当課及び関連部署の職員間で速やかに情報共有を図り、対応確認を行った。指摘事項に関しては、担当者間で協議し、利用者の利便性を優先した迅速な対応に努めた。また、アンケートにて要望のあった事項について、対応なども含めホームページで閲覧できるようにしている。

▼ 創作普及課では、利用者の要望が多い木工房にて利用者との意見交換会や説明会を行い、貸工房利用ルールの確認・周知や、利用者の意見を運用に生かす要望対応などにも努めた。

▼ 札幌芸術の森ホームページに寄せられる問い合わせについても、関係部署で情報共有を図り回答した。

来園者からの要望は真摯に受け止め、職員間で情報を共有し、可能なものは迅速に改善するよう努めた。

（例）

・外国人のお客様からクラフト工房の講習会への参加を希望された際、受付職員が「Japanese only」と案内したため、チラシ等にその旨の記載がなかったこともあり、ショックを受けたとのご意見が寄せられた。実際には外国人の方も可能な限り受け入れているが、講習中の説明は日本語のみの対応となることをお伝えしたかったものの、その意図が十分に伝わらなかった。
→外国人の方から質問を受けた際の案内定型文を窓口に備え付けるとともに、講習会チラシの英語版を新たに作成・配架することとした。

【本郷新記念札幌彫刻美術館】

- ▼ 要望・苦情のあった際は職員間で情報を共有し、迅速に検討・対応した。
- ▼ 代表メールアドレス宛に届いた問い合わせに対しても、情報共有を図り、迅速に回答した。

来館者からの苦情・要望に対しては、職員間で情報を共有し、適切に対応することができた。

(例)

- ・ホームページへの表記の曖昧さへの指摘に対し、記載方法を変更した。
- ・手すりの無い段差での転倒があり、すぐに手すり設置への対応を行った。

▽ 記録・モニタリング・報告・評価（記録、セルフモニタリングの実施、事業報告、札幌市の検査等への対応、自己評価の実施）

【札幌芸術の森、本郷新記念札幌彫刻美術館】

- ▼ 指定管理業務に関する下記の記録・帳簿等については適切に整備保管した。
 - ・事業日誌等
 - ・管理業務に関する諸規程
 - ・文書管理簿
 - ・各年度の事業計画及び事業報告書
 - ・収支予算・決算に関する書類
 - ・金銭出納に関する帳簿
 - ・物品の受払いに関する帳簿
 - ・各種業務に関する記録書類及び札幌市が必要と認める書類
- ▼ セルフモニタリングについては、来園者、利用者の満足度を測定するため、アンケート調査を実施した。また、セルフモニタリングや業務・財務検査を通して管理運営に関する自己チェックを実施した。
- ▼ 札幌市による施設の管理運営に関する検査等へは誠実に対応した。
- ▼ 自己評価の実施については、施設の利用状況、主催・自主事業の実施状況等について、毎年度、事業報告書と合わせて札幌市に提出している。

業務実績の整備・保管を適切に行うことができた。

施設運営の維持・改善を図るため、来園者にアンケート調査を実施している。寄せられた意見や感想については、担当者を中心に部内で共有している。

(2) 労働関係法令遵守、雇用環境維持向上	▽ 労働関係法令遵守、雇用環境維持向上(事故の有無などの安全衛生面を含む)		<table border="1"> <tr> <th>A</th><th>B</th><th>C</th><th>D</th></tr> <tr> <td colspan="4">2件の労働災害が発生したことを踏まえて、衛生委員会や施設ミーティング等による注意喚起や情報共有を日常的に実施することで再発防止に努めている。</td></tr> <tr> <td colspan="4">また、法令に基づく版画工房への化学物質管理者の配置や作業環境測定などにも適切に対応している。</td></tr> <tr> <td colspan="4">財団全体として雇用環境の維持向上を図るため、様々な取組を進めており、本市の要求水準を満たす適切な管理が行われている。</td></tr> </table>	A	B	C	D	2件の労働災害が発生したことを踏まえて、衛生委員会や施設ミーティング等による注意喚起や情報共有を日常的に実施することで再発防止に努めている。				また、法令に基づく版画工房への化学物質管理者の配置や作業環境測定などにも適切に対応している。				財団全体として雇用環境の維持向上を図るため、様々な取組を進めており、本市の要求水準を満たす適切な管理が行われている。			
A	B	C	D																
2件の労働災害が発生したことを踏まえて、衛生委員会や施設ミーティング等による注意喚起や情報共有を日常的に実施することで再発防止に努めている。																			
また、法令に基づく版画工房への化学物質管理者の配置や作業環境測定などにも適切に対応している。																			
財団全体として雇用環境の維持向上を図るため、様々な取組を進めており、本市の要求水準を満たす適切な管理が行われている。																			
	【札幌芸術の森・本郷新記念札幌彫刻美術館】 ▼ 適正な内容で36協定を締結したほか、雇用環境の維持向上のため、関係法令に基づき財団諸規則等の見直しを行い、労働基準監督署に届け出た。 ▼ 給与の額や支給方法等の雇用条件については、財団の例規として、職員、契約職員、パート職員の各々について就業規則を定めているほか、職員については別途給与規程を制定し明示している。これらを変更する場合には職員の過半数を代表する者の意見を聴取し、行政官庁への届出を行っている。また、賃金台帳など法定帳簿等も整備している。 ▼ 就業規則を含む例規集は、グループウェアにより、常に各職員が閲覧可能な状態としている。 ▼ 札幌市ワーク・ライフ・バランスplus企業（ステップ3）として認証を受けているほか、4年計画で策定した次世代育成支援対策推進法及び女性活躍推進法に基づく一般事業主行動計画を現在遂行中である。 ▼ 毎月の給与計算や社会保険・労働保険関係の各種手続き等は、社会保険労務士事務所への委託により実施し、労働関係法令改正への対応についても、受託先の社会保険労務士と相談して行っている。 ▼ 労働安全衛生法及び当財団衛生委員会要綱に基づき衛生委員会を開催し、衛生管理者、産業医とともに労働災害の防止、職員の健康管理及び職場環境の向上に努めている。 ▼ 産業医の選任のほか、顧問弁護士も導入しており、これらの専門家による、心身の健康面、雇用、仕事以外の事柄も含めた個別相談に応じる体制を採っている。また、各種ハラスメント対応のための専用相談窓口を設けている。 ▼ 高齢者等雇用の安定等に関する法律に基づき、定年（61歳）退職後に、希望者を65歳まで継続雇用し、高齢者の雇用を促進した。 ▼ 木工房の管理運営に係る法令・通知・公示と安全衛生の向上や労働災害防止を目的とする各工作機械のガイドラインについて、業界団体の定期刊行物の購読により情報収集に務めたほか、労働安全衛生法に準拠した木工房管理マニュアルを整備し、安全な工房管理に努めている。令和6年度より、法令に基づき、有機溶剤を取り扱う版画工房において、講習を受講した専門職員を「化学物質管理者」「保護具着用管理責任者」として配置している。また、版画工房において年間2回の作業環境測定を実施し、適切な作業環境維持がなされていることを確認した。 ▼ 労働災害・事故について、2件の労働災害が発生した。 ・美術館収蔵庫における資料整理作業中、職員1名が重量のある段ボールを持ち上げた際、急性腰痛症を発症した。 ・荷物を持って園内を歩行中、路面凍結により足を滑らせて転倒し、後頭部を打撲した。 ▼ 労働災害を防止するための対策として、衛生委員会や常駐業者も含めた施設ミーティングの中で注意喚起や必要な情報の共有を日常的に行うほか、職員に順次、労働安全衛生法による職長・安全責任者講習を受講させ、意識向上に努めている。	36協定の内容を遵守するよう、長時間労働の状況把握及び業務配分等に取り組んでいる。 雇用環境については、繁忙期と閑散期があることを踏まえ、業務の効率化や人員体制の補強を行うなど、環境を整えるよう配慮している。 衛生委員会や産業医の職場巡視やミーティング等での日常的、継続的な注意喚起により、労災防止に努めた。																	

(3) 施設・設備等の維持管理業務	▽ 総括的事項（利用者の安全確保、市民サービス向上への配慮、連絡体制確保、保険加入）		A B C D
	【札幌芸術の森】 ▼ 利用者の安全を確保するため、定期的な巡回を実施するとともに、園内施設および設備の点検・維持管理を適切に行った。 また、管理課職員と常駐委託業者を構成員とする施設連絡会議を週1回開催し、施設管理に関する情報共有および安全意識の統一を図りながら、適切な施設管理業務を実施した。 ▼ 財団4施設において新施設予約システムの導入を行い、利用者が1つのアカウントで財団が指定管理する他施設の予約もできるようになった。 ▼ 施設内へのヒグマ進入防止対策として、施設外周への電気柵設置を継続して実施し、利用者が安心して施設を利用できる環境の確保に努めた。また、電気柵の維持管理については、専門業者への保守点検の業務委託に加え、職員による日常的な目視点検を実施することで、設備の適切な維持管理および異常の早期発見に努め、安全性の向上と事故の未然防止を図った。 ▼ 冬季は、除雪業者と緊密な連携を図り、急な天候の変化にも迅速かつきめ細やかに対応することで、来園者の利便性の維持と安全確保に努めた。また、車道や園路の凍結時には、砂まきや融雪剤の散布を適宜実施するとともに、注意喚起の掲示を強化することで、転倒事故等の未然防止に努めた。 ▼ 拾得物の取扱いについては、所轄の警察署の助言を踏まえて改訂した拾得物取扱マニュアルに基づき、適切かつ確実に対応している。また、拾得物が速やかに落とし主へ返却されるよう、職員およびスタッフ間で情報共有を随時行い、利用者サービスの向上と信頼性の確保に努めた。 ▼ 損害賠償保険は継続して、仕様に適合したものに加入した。 【本郷新記念札幌彫刻美術館】 ▼ 利用者の安全については、本館、記念館敷地の巡視、館内モニターに常に留意することによって事故防止に努めている。 傾斜路である本館、記念館玄関アプローチでの冬季の転倒事故を防ぐため、営業時間内は路面状況の変化を常に注視し、除雪、氷割り、砂まき作業に即応した。 記念館1階の段差にてつまずく来館者が見受けられたので、2か所に手摺を設置した。 近隣でのクマ出没情報に関しては、来館者や電話などでの問い合わせに対し適宜対応した。 ▼ 拾得物扱いについては、財団の拾得物マニュアルに従って届け出に迅速に対応し、利用者サービスの向上に努めた。 ▼ 損害賠償保険は仕様に適合した施設賠償責任保険に加入した。	利用者の快適性および安全性の維持・向上を図るため、各業者との連携を密にしながら、適切かつ計画的な維持管理を実施した。これにより、日常的なリスクの低減と安定した施設運営の確保につなげた。 利用者の安全性、快適性を維持するため、各業者と連携を密にしながら適正な維持管理ができた。 野外彫刻作品、及び大型の石膏原型作品等の防災・保全方法の研究を進め、状況に応じた対策を講じられるよう努めている。	両施設とも、日常的な保守点検や清掃、第三者委託による緑地・外構管理などを適切に実施しているほか、冷却塔部品や照明器具、温水洗浄便座の交換など来園者の利便性や安全性向上のための必要な修繕を行っており、また、新施設予約システムの導入による利用者の利便性向上など、本市の要求水準を満たす適切な管理運営が行われている。

▽ 施設・設備等の維持管理（清掃、警備、保守点検、修繕、備品管理、駐車場管理、緑地管理等） 【札幌芸術の森】 ▼ 施設の維持管理にあたっては、来園者の安全性および快適性の確保を最優先に、適切な管理運営を実施した。 また、清掃・警備等の施設管理業務をはじめ、設備保守、美術館管理、緑地・外構管理など計47業務について専門性を有する第三者へ委託し、効率的かつ適切な維持管理に努めた。 ▼ 主な修繕について ①美術館 第2収蔵庫冷却塔モータファン交換 ②美術館 第2収蔵庫冷温水発生機部品交換 ③美術館 冷却塔 散布水ポンプの修繕 ④絵画アトリエ アトリエ階段の外灯電源改修工事 ▼ 備品管理について 日常・定期点検、専門業者による保守点検、清掃などを実施し、異常を早期発見するとともに、適正な管理を実施した。 【本郷新記念札幌彫刻美術館】 ▼ 本館、記念館施設、設備の維持、管理については適切に実施し、仕様書の水準を達成した。なお、警備業務、外構緑地管理業務は第三者委託により実施した。 ▼ 主な修繕について ①本館門扉カニヌキ錠修理 ②事務室照明器具交換 ③本館女子トイレ温水洗浄便座交換 ▽ 防災 【札幌芸術の森】 ▼ 下記のとおり、防災訓練等を実施した。 ・第1回消防訓練（総合訓練）11月14日 ・第2回消防訓練（通報訓練）3月24日・25日 【本郷新記念札幌彫刻美術館】 ▼ 下記のとおり、防災訓練等を実施した。 防災計画を策定するとともに、12月27日に自衛消防訓練を実施した。 ※本館ボイラー室からの出火を想定した総合訓練	利用者が常に最良の状態で施設を使用できるように、維持管理の徹底に努めた。 仕様書に則した維持管理業務を行うことができた。 状況に応じた適切な修繕を実施することができた。 職員と常駐業者の防災への意識を高めることができた。 職員の防災への意識を高めることができた。
---	---

(4) 事業の 計画・実施 業務	【札幌芸術の森】				
	▽ 音楽・舞台芸術事業 ▼札幌の文化芸術発信事業 サッポロ・シティ・ジャズ2025 札幌の観光文化事業を担う独自のジャズイベントとして開催19回目を迎えた。ジャズの街さっぽろを国内外に発信し、都市のブランド力を高め、観光資源の創出を図るとともに、ジャズによる人材育成や市民参加活動の促進など、魅力ある街づくりに繋がる様々な事業を実施した。 ①シアタージャズライブ 入場者数：3,280人 11月、高機能ホール「札幌文化芸術劇場hitaru」を会場に、舞台上にステージと客席を設け、5日間8公演を実施した。世界中で活躍するキャンディ・ダルファーをはじめ、ヨーロッパ最高峰のギター奏者ビレリ・ラグレーンや、札幌ジュニアジャズスクール出身の寺久保エレナが出演し、盛況となった。	施設間連携を生かした特色ある事業として、多くの市民に一流のアーティストによる質の高いジャズ公演の鑑賞機会を提供。全8公演を通して公演満足度94%、接客満足度95%という高い評価をいただいた。			
					両施設とも、多様な事業が計画・実施されている。 芸術の森では、サッポロ・シティ・ジャズにおいて、ユニバーサルジャズライブなど社会包摂を意識したプログラムや、各種団体とのタイアップによる多彩な公演を開催し、ジャズ文化の振興に努めた。 また、ジュニアジャズスクールは、国際交流事業としてノルウェーを訪問し

②市民交流プラザを活用した普及事業
入場者数：4,620人

施設間連携事業の一環として札幌市民交流プラザの機能を活用し、ジャズの入り口として身体が不自由な方を含む誰もが楽しめる「ユニバーサルジャズライブ」や、親子で一緒に楽しめる体験型ライブ「デイタイム親子ジャズ」、楽器初心者を対象とした楽器体験イベント「Do Jazz！見てさわって楽器体験！」をクリエイティブスタジオで開催。札幌市図書・情報館とのタイアップによる「ジャズライブラリー」では、シアタージャズライブ出演者が影響を受けた選書を展示したほか、『JAZZ批評』元編集長の原田和典によるトークイベントを実施した。

ユニバーサルジャズライブでは、身体が不自由な方が気軽に鑑賞できるよう司会による解説をつけたほか、客席への動線やスペースを整えるなど工夫し、社会包摂を意識した運営を行うことができた。また、複合施設である札幌市民交流プラザの機能を活用し、図書と音楽のコラボレーションによる特色ある展示企画やトークイベントを実施し、ジャズ音楽の裾野拡大に努めた。

、各国から集った同世代の子どもたちとの交流を通し、次代を担う人材育成に大きく貢献している。

このほか、「コスチュームジュエリー 美の変革者たち シャンネル、ディオール、スカパレリ 小瀧千佐子コレクションより」、「0さいからのげいじゅつのもり」で幅広い層へアートに親しむ機会を提供したほか、工芸分野では6年ぶりに登り窯を稼働させるなど、施設の魅力を広く伝える事業に取り組んだ。

彫刻美術館では、子どもたちに分かりやすく本郷新記念札幌彫刻美術館の魅力を伝えるために、伝記マンガを作成し、市内小学校に無料配布するなど、事業を通じた普及や、SCARTSと連携して彫美連続講座を行うなど、彫刻芸術の情報発信に積極的に努めている点は高く評価できる。

よって、本市の要求水準を超えたものと認められる。

③企業・団体とのタイアップによる事業

入場者数：54,162人

チ・カ・ホを会場とした「サッポロ・サウンド・スクエア」や、札幌市交通局とのタイアップイベントである「SCJ Live in 札幌市交通資料館」、札幌市役所での「市民ロビーコンサート」、札幌市のイベントである「ライラックまつり」、「さっぽろオータムフェスト」など、さまざまな企業・団体・イベントとタイアップし、地域のにぎわいを創出し魅力をアップさせるジャズライブを地元ミュージシャンに出演いただき開催した。

さっぽろオータムフェストでの「食と音楽」をテーマにした無料のジャズライブ（入場者数:12,533人）や、改修工事を終えリニューアルした赤れんが庁舎でのライブ、ルスツリゾートとのタイアップによる観光客に向けた100日間のロングランライブ（入場者数：21,000人）など、積極的に他イベントや異業種団体との連携に取り組み、ジャズ文化の普及と北海道観光の振興、札幌の街づくりに寄与した。

▼ 次世代の文化芸術の担い手の育成・支援事業

①第26期札幌ジュニアジャズスクール

参加者数：40人（小学生22人、中学生18人）

26年目を迎えた当事業では、札幌芸術の森での毎週末の定期練習を中心に、市内外での演奏会への出演や、イベントでの演奏などの活動を通年で実施した。

Seiko Summer Jazz Campの講師陣によるワークショップや、藻岩山の清掃活動、高齢者施設での慰問演奏など、充実した活動を行うことができた。

②北海道ジャズの種プロジェクト

参加者数：59人

ジュニアジャズ活動の振興と地域の活性化を目的とした北海道ジャズの種プロジェクトでは、道内4地域（広尾、ようてい、幕別、砂川）のジャズスクールと連携し、札幌での合同合宿や、広尾町での合同演奏会「ともだちコンサート」を実施した。

オーディションで選考された40人、また北海道ジャズの種プロジェクトでは道内4スクール、総勢80人以上の小中学生が活動に参加。定期練習や演奏活動、合宿や合同演奏会の開催などを通して、次世代育成事業を充実させ、継続した。一年間の活動の締めくくりとなるファイナルライブでは、前日のミュージックランプとあわせ約1,000人が来場した。

③札幌ジュニアジャズスクール国際交流事業
参加者数：中学生17人

国際交流事業として札幌ジュニアジャズスクール中学生クラスが13年振りにノルウェーを訪問。オスロ市で開催された青少年のためのジャズフェスティバル「Kids in Jazz」に参加し、現地ノルウェーをはじめフェロー諸島やアイスランド、イタリアなど各国から集まった子どもたちと、ジャズを通じた交流を行った。
また演奏以外にも、在ノルウェー日本国大使館への表敬訪問や、彫刻家グスタフ・ヴィーゲランの作品が並ぶ公園の見学など、様々な活動に取り組んだ。

ノルウェーほか各国から集った約100人の同世代の子どもたちと音楽を通じて交流を深めるとともに、札幌の中学生によるビッグバンドジャズを力強く紹介した。
また、初めての海外への渡航、滞在の体験を通して、国際的な視野や異なる文化を知り理解する力を育む機会となった。

④札幌芸術の森バレエセミナー2025
受講者数：96人（内18人は一般・指導者向け講座受講者）
見学者数：402人

若手ダンサー育成を目的として35回目を迎えた当セミナーは、パリ・オペラ座バレエ団教師のジル・イゾアールを主任講師に迎え、同団元エトワールのエリザベット・モラン、コンテンポラリーダンサーの刈谷円香など世界で活躍する講師陣を招き、クラシックからコンテンポラリーまでの充実したプログラムを揃え5日間にわたり開催した。
期間中、過年度受講生でパリ・オペラ座団員の山本小春の公開レッスンを実施したほか、市民交流プラザ事業部との連携により、ジル・イゾアールの公開トークを札幌市図書・情報館で開催した。

世界レベルの丁寧な指導を受けられる機会を提供し、全国から96人の受講者が集まった。受講者・関係者から高い評価をいただき、次世代を担う若手ダンサーたちの育成と支援に貢献した。
また、「hitaruバレエプロジェクト」との連携事業では、広く事業をPRし、芸術の森まで足を運んだことのない客層を獲得することができた。

▼ 芸術文化を通じた市民活動の促進

①パークジャズライブ
入場者数：50,169人 参加者数：223バンド

プロ・アマ不問で市民ミュージシャンに広く発表の機会を与え、音楽による市民活動を促進し市民文化を醸成することを目的として、全国から出演者を募集し、7月に2日間にわたり市内中心部の大通公園や豊平館など全12会場で無料ライブを開催した。
また、サッポロ・シティ・ジャズ全体を支える市民ボランティア「ジャズセーバーズ」を組織し、パークジャズライブやシアタージャズライブなど各イベントの運営を支える活動を行った。

2日間で223組の参加者が出演し、運営を支えるボランティアには男女問わず10代～80代まで182人が登録。
「札幌がジャズの街になる」をテーマに市民が出演するだけでなく、運営スタッフとしてイベントを成功させ、市民の文化活動を促進し、魅力的な街づくりに繋げることができた。

▼ 質の高い文化芸術の創造・提供

①シアタージャズライブ [再掲]

▽ 芸術の森美術館事業

▼ 展覧会事業

展覧会企画数 : 8本

総入館者数 : 77,479人

(自主事業「札幌美術展 下沢敏也 origin—土の命脈」 「リフレクションズ—いつかの光」を含む。)

①コスチュームジュエリー 美の変革者たち シャネル、ディオール、スカパレツリ 小瀧千佐子コレクションより
会期：令和7年4月19日（土）～6月22日（日）63日間
入場者数：17,210人

宝石や貴金属を用いず、ガラスや貝、樹脂など多様な素材で制作される装身具・コスチュームジュエリー。宝飾品の既成概念から解放され、女性の社会進出が進む当時の世相と相まって、彼女たちの自立と個性を表現するアイテムとして絶大な支持を得た。本展では、コスチュームジュエリーの世界的なコレクターである小瀧千佐子氏のコレクションから454点の作品を展覧し、コスチュームジュエリーの歴史的展開とその魅力を紹介した。

②小松美羽 祈り 宿る Sacred Nexus: Resonating with Cosmos
会期：令和7年7月5日（土）～8月31日（日）58日間
入場者数：19,167人

狛犬や龍などの神獣を描く現代アーティスト小松美羽は、その画業において「霊性」という視点から、宇宙や精神世界を含む森羅万象に宿る力を顕現させ、調和させることを試みてきた。本展では、作家の代名詞である神獣を核に、各地の民話を図像化した連作、独自の宇宙観による大型作品、北海道の風土から想を得た新作を含む70点を展覧し、作家が真摯に取り組んできた祈りと制作の往還を紹介した。

未就学児、小学生、20～30歳代という普段美術館に訪れる習慣のない層の人々にも足を運んでいただけた。来館者からは「時代の変遷を辿りながら、デザイナーたちの思想や信条に触れることができた」「ファッション関係の展覧会は北海道内では貴重なので、新鮮な気持ちで観ることができた」といった声をいただき、価値ある鑑賞機会を提供することができた。

特定の層に限らず幅広い年齢、性別の方が足を運んでおり、また比較的海外からの来館者も多かった(アンケート総数の9%)。「画家の創作のエネルギーが直接伝わってきた」「繊細でもあり魂が込もっていて、想像以上の迫力だった」など、作品を介して作家の祈りの営みに触れることへの時に熱狂と拒絶が混交する新鮮な反応が得られた。一見難解と思われるテーマを扱った作品群が多かったものの、音声ガイドの導入等により作品世界により没入して鑑賞する方が多くみられた

③札幌美術展 下沢敏也 origin—土の命脈
会期：令和7年9月13日（土）～11月3日（月・祝）52日間
入場者数：4,742人

陶によるインスタレーション作品を20年以上にわたり展開する下沢敏也の個展を開催。従来の陶表現を越え、生命の果てゆく姿と、その残り火の中から再び生れ出ようとする予感が静謐さのなかに充溢するインスタレーションなど39点を展覧し、北海道の陶土を素材に独自の技法を探究する下沢が挑む、造形表現の今に迫った。

札幌市内を中心に幅広い年代の方の来館があった。やきものと茶室の空間展示、新作のインスタレーションや平面作品の展示を通して、北海道の陶芸界をリードしつつ、伝統的な「うつわの仕事」と「前衛の仕事」とを行き来する下沢敏也の作品世界を紹介し、土による造形表現の可能性や広がりを感じることができた。風化から再生へと向かう生命の営みをテーマとした作品群に対し、「命の循環を感じられる」といった感想も多かった。また、会期中は音楽やダンスなど様々な関連イベントを開催し、幅広い層の集客につなげることができた。

④リフレクションズ—いつかの光
会期：令和7年11月15日（土）～12月21日（日）32日間
入場者数：2,339人

北海道ゆかりの5組の作家による現代美術展。眼前の風景や自然現象を鋭敏に知覚し、絵画、彫刻、写真、映像、音響などそれぞれの手法で表わした作品群を展覧し、世界を捉えるあらたな視点を提示した。
出品作家：青木陵子+伊藤存、池田光弘、国松希根太、野口里佳、平川紀道

国内外で活躍する作家の質の高い作品を紹介することができ、現代美術の鑑賞機会の少ない札幌での本展の開催を喜ぶ声が多く寄せられた。来場者の傾向として、20～30代の若い層が目立ち、男性の割合も通常よりやや多かった。「多様な表現手法を楽しむことができた」、「五感を使って感じられる展示だった」、「身近な自然に意識を向けるきっかけになった」といった、現代美術の表現の多様さや、身の回りの世界に対する別の視点をもたらされる体験を好意的に受け止める感想が目立った。

⑤0さいからのげいじゅつのもり

会期：令和8年1月17日（土）～4月12日（日）74日間（令和7年度63日間）

入場者数：12,523人（令和7年度）

平成26年以降、雪の影響を受ける季節に子どもたちの数少ない遊び場として企画されてきた「0さいからのげいじゅつのもり」展の7年ぶり7回目の開催。美術館のコレクションを中心に、0歳から大人まで夢中になれる仕掛けを凝らした鑑賞や、身体をめいっぱい動かして楽しむ体験を通して、誰もが気兼ねなくアートに親しめる空間を展開した。

「0さいからのげいじゅつのもり」の名の通り、まだ歩くことのできない乳児から、活発に遊ぶ年齢の子ども、そしてその家族まで幅広い年齢層の来館が見られた。普段は美術館に足を運ぶ機会の少ない、あるいは来館が難しい層を含め、老若男女がアートに親しむ機会となった。とりわけ小さな子どもを連れた来館者からは、本展が「美術館デビュー」であったとの声が多く寄せられた。

⑥札幌芸術の森美術館所蔵品展 W.S.クラークの像

会期：令和7年4月19日（土）～6月22日（日）63日間

入場者数：13,512人

さっぽろ羊ヶ丘展望台に設置されている《丘の上のクラーク》の石膏原型（札幌芸術の森美術館蔵）をはじめ、関連資料を展示し、北海道でのクラークにまつわる歴史をひも解いた。

「羊ヶ丘のシンボルクラーク像の制作過程が拝見でき嬉しかった」「羊ヶ丘のクラーク像を石膏像で間近で見られてよかった」「クラークや北海道大学の歴史を知れた」などの感想が寄せられ、好意的な意見が多かった。札幌にゆかりの深い収蔵品を起点に、地域の歴史へと目を向ける機会を提供することができた。

⑦札幌芸術の森美術館所蔵品展 豊平館の画家たち
会期：令和7年9月13日（土）～11月3日（月・祝）52日間
入場者数：5,108人

芸術の森美術館所蔵作品と関連資料から、北海道初の大規模宿泊施設として設置された豊平館の歴史を紐解き検証した。

平成21年度に収蔵となった豊平館聖徳記念館旧蔵絵画4点全てを同時に当館で展示する初めての機会となった。「北海道のある面の歴史を感じられた」「豊平館の当時の役割や雰囲気が伝わってきた」などの感想が寄せられ、当時の社会情勢や歴史的な歩みを紹介することができた。一方で「実際に豊平館で展示したほうが興味がわきよかったのではないか」といった指摘もあり、豊平館との施設間連携にも取り組むことができると尚よかったと思われる。

⑧道又蒼彩 個展 “relief”
会期：令和7年11月15日（土）～12月21日（日）32日間
入場者数：2,878人

北海道を拠点に活動する美術家・道又蒼彩（2000-）の個展を開催した。「安堵（relief）」をテーマに、コミュニティに属する安心感やそこにとどまり続けることへの不安に目を向けて描かれた木版画を、新作を含めて12点紹介した。

「作品に共感した、作品の中に自分を探してしまった」「物語を感じられた」といった感想が多く、個々人が思いを巡らせながら鑑賞していたことが窺われた。また「今後も若手の発表の機会が続くとよい」という意見もあり、若手作家の展示を求めるニーズも把握することができた。

▼ 野外美術館

期日：令和7年4月29日（火・祝）～11月3日（月・祝）

入場者数：39,429人

※上記期間中、謎解きイベント「時紡ぐミュージアムの約束」、「五感であそぶ謎解き 招かれざる客～消えた彫刻の行方～」を併せて実施した。

来館者への作品鑑賞サポートとして、野外美術館作品解説ボランティア29名による作品解説を行った。また、野外美術館の作品鑑賞の手引きとして、「彫刻鑑賞ノート」と、シールを貼りながら作品を楽しく学ぶことができる子ども向けの「シールマップ」を販売した。

加えて、自分のスマホで作品解説を聞ける「ポケット学芸員」の提供を行った。令和8年4月より、札幌市宿泊税活用事業として、上記アプリの多言語対応業務を実施予定。

▼ 教育普及に関する事業

[佐藤忠良子どもアトリエ]

当財団の中期経営計画の重点取組項目である子どもたちの芸術文化活動の充実に取り組む事業として、彫刻家佐藤忠良作品を中心とした所蔵品を展示するとともに、子どもを主な対象としたワークショップの企画・実施をした。

①特別ワークショップ「光の箱」

期日：令和7年5月3日（土・祝）

参加者数：36名

造形作家・松村泰三氏考案の、光と色の変化を楽しむことができる「光の箱」を制作するワークショップを行った。箱の中にミラーフィルムで作った筒を配置し、カラーセロハンを片面に貼り付け、自分だけの光の箱を制作した。

②夏休み特別ワークショップ「岩えのぐで涼うちわ」

期日：令和7年8月6日（水）～9日（土）、8月12日（火）～16日（土）

（計9日間、18回）

参加者数：46名

日本画の基本的な技法を手軽に体験できる機会として、うちわに「かき氷」を描くワークショップを行った。あらかじめドーサ引きを施した木うちわに線画を転写し、墨で線を描き起こしてから、岩絵具と胡粉ジェッソ（下地剤）などを使って着彩した。

野外彫刻の常設展示を開園以来継続しつつ、研鑽を積んだボランティアによる安定した作品解説サービスが好評であることに加え、イベント実施や工夫された様々な鑑賞サポートツールの提供により、利用促進に努めた。

ゴールデンウィーク、夏休み、冬休みに合わせて子ども向けのワークショップを企画し、参加者からは内容や講師の対応について、安定的に高評価を得ている。夏休みのお盆期間は申込がやや低調で、実施時期については検討が必要。

③冬休み特別ワークショップ「ちびっこ油絵」
期日：令和8年1月10日（土）～12日（月・祝）、15日（木）～16日（金）
（計5日間、10回）
参加者数：43名
額縁販売数：12個

道具や画材を提供し、F4サイズのキャンバスに自由に制作するワークショップを行った。同時に額縁の販売を行い、額装による見え方の違いを体験してもらった。

▼ 芸術の森開園40周年事業
①小松美羽 ライブペインティング

期日：令和7年6月14日（土）
会場：札幌芸術の森野外美術館 佐藤忠良記念子どもアトリエ前広場
入場者数：310人

野外美術館の緑豊かで開放的な空間を舞台に、現代アーティスト小松美羽によるライブペインティングを実施した。当日はYouTubeでのライブ配信を実施するとともに、その後もアーカイブ動画を公開し、多くの方に鑑賞機会を提供した（再生回数3.2万回、3月31日時点）。

②札幌芸術の森 おはなしコンサート

実施校・期日・参加人数：
①手稲宮丘小学校（令和7年7月9日）、100人
②栄緑小学校（令和7年7月10日）、124人
③真栄小学校（令和7年7月11日）、67人
④共栄小学校（令和7年7月11日）、81人

ピアニストの金子三勇士を招き、市内小学校にてアウトリーチプログラムを行った。野外美術館の彫刻作品から連想したクラシックの名曲を、札幌市在住の映像作家・北川陽穂による彫刻作品の映像とともに演奏し、曲にまつわるエピソードや芸術の楽しみ方について紹介した。

③金子三勇士ピアノコンサート～森の彫刻とともに～

期 日：令和7年9月13日（土）
会 場：札幌芸術の森野外美術館 佐藤忠良記念子どもアトリエ前広場
入場者数：135人

ピアニストの金子三勇士を招き、野外美術館内に特設ステージを設け、ピアノコンサートを開催した。金子氏が野外美術館の彫刻作品からインスピレーションを得た楽曲を中心に、計12曲を演奏した

国内外で活躍するアーティストの創造活動に対する関心は高く、幅広い層の野外美術館への来館を促進することができた。また、ライブ配信・アーカイブ公開を通じて、現地に足を運べない方にも広く鑑賞機会を提供した。

ピアニストによる迫力ある演奏と、芸術に親しむための楽しいお話に、参加した子どもたちは心を動かされていた。質の高い表現を間近に体験し、芸術家と触れあう機会を提供することで、芸術への関心をダイレクトに喚起することができた。映像を通して野外美術館への興味を惹かれたという感想も多かった。

金子氏が野外美術館で作品を鑑賞したエピソードも交えて、作品にちなんだ楽曲を演奏するという芸術の森ならではの公演内容となった。あいにくの大雨にも関わらず100名を超える観衆が集まり、ふだん野外美術館を訪れない層の来館を促すことができた。

④Kitara×札幌芸術の森連携事業 金子三勇士ピアノリサイタル～芸術の森を歩いて～

期 日：令和7年9月28日（日）
会 場：札幌コンサートホールKitara大ホール
入場者数：724人

Kitaraと芸術の森の連携事業として、ピアニストの金子三勇士を招き、ピアノコンサートを開催した。第一部において、野外美術館の彫刻作品から連想したクラシックの名曲を北川陽穂による作品の映像とともに演奏した。

コンサートホールと芸術の森とで連携し、演奏家を交えて、オリジナルの公演内容をつくることができた。演奏とともに上映した映像やトークを通して、コンサートホールの常連層に芸術の森の魅力の一端を紹介することができた。

▽ 工芸・工房事業

▼ 第25期工芸作品展示事業

クラフト作家への展示・販売機会の提供、使い手となる市民への良質なクラフト作品の紹介と購入できる場の提供を目的に、工芸館展示ホールにおいて、札幌圏を中心とした道内クラフト作家の作品を展示販売。令和7年度は2期に分け、季節をテーマに展示作品の入れ替えを行った。今年度の出品作家は北海道内で活動する46人。また、工芸作品の一部を芸術の森ホームページにてオンライン販売し、29,920円の販売実績があった。

会期：
「春の森、夏の森」令和7年4月19日（土）～8月31日（日）
「秋の森、冬の森」令和7年10月18日（土）～令和8年3月22日（日）
※令和7年11月1日（土）～令和8年3月22日（日）は平日休館(土日祝のみ開場)
会場：工芸館展示ホール
斡旋販売額：6,499,938円（前年度実績：6,093,671円）
入場者数：30,836人(前年度実績：37,194人)

SNSにて出品作家を日替わりで紹介するなど、広報に務めた。工芸館の入口や休憩スペースなどの装いを滞りやすい雰囲気となるよう工夫した。また、インバウンド需要の増加等により昨年度よりも販売売上額が増加した。さらに、工芸館の収蔵品から久しく公開されていなかった作品を展示し、広く鑑賞していただく機会を創出した。

▼ 工芸館コレクション展

工芸館の収蔵品からテーマごとに作品を選出し、クラフトギャラリー「ベストポケット」と併設展示した。テーマは①「木の譜面台と椅子」、②「クリスマス」、③「干支(午)」。

会期：
①令和7年4月19日（土）～8月31日（日）
②令和7年11月15日(土)～12月21日(日)
③令和7年12月27日(土)～令和8年3月22日(日)
※②、③は平日休館(土日祝のみ開場)
会場：工芸館展示ホール
入場者数：28,858人(「ベストポケット」入場者数再計)

▼ 森から生まれたクラフト展 2025

陶芸・木工・テキスタイル・七宝・版画等の各種講習会受講者や、各工房の利用者が制作した作品を「芸術の森の中で生み出された作品」として展示・販売。初心者から経験者まで、市民に作品発表の場を提供するとともに、講習会や貸工房のPRも兼ねており、来場者が“ものづくり”に魅力を感じ、興味を持つきっかけとなることを目指して開催した。

会期：令和7年9月13日(土)～9月28日(日)

会場：工芸館展示ホール

入場者数：3,008人

出品者数：34人 出品数：約237点

関連事業「登り窯焼成」

芸術の森の登り窯を活用して、講習会受講者や陶工房利用者、北海道陶芸協会が制作した作品(約500点)の焼成を行った。焼成された作品の一部の作品を「森から生まれたクラフト展 2025」にて展示した。

会期：令和7年8月25日(月)～8月31日(日)焼成

令和7年9月1日(月)窯出し

会場：登り窯

参加者数：78人

森から生まれたクラフト展では、工房利用者や受講生の作品展示により、芸術の森で行われている創作活動を市民に紹介できた。

出品者からは、芸術の森で作品発表することが更なる創作活動に繋がるといった意見もあり、来園者・利用者にもものづくりの楽しさを紹介することができた。

登り窯はコロナ禍を経て利用されなくなって以降、6年ぶりの稼働を、地元陶芸団体の協力を得て実施できた。道内でも貴重な登り窯の存在や薪窯の魅力をSNSも活用して幅広いPRに努めた。

▼ 第31回芸術の森地区文化祭

札幌市南区芸術の森地区連合町内会による文化事業。芸術の森地区まちづくりセンターと連携し、芸術の森を会場に絵画、写真、書道、工芸等、地域の方々の創作活動の発表の場となる展覧会を開催した。

会期：令和7年10月4日(土)～10月5日(日)

会場：工芸館展示ホール

入場者数：463人

▼ 工芸・版画講習会事業

クラフト工房と各工房において、ものづくりを愛好する人の裾野拡大と技術習得・向上を目的とした講習会を通年で開催した。陶芸、テキスタイル、手織、木工、七宝、ガラス、版画の各分野で、個人向けの講習会と団体向けのグループ講習会、また予約なしで気軽に作品制作が楽しめる「ふらっとクラフト体験」に加え、作家を講師に招いたワークショップや木工房の大型製材機経験者を対象とした大型製材機安全講習会を開催するなど、初心者から上級者まで幅広い層を対象としたプログラムを実施した。また、ゴールデンウィーク、芸術の森バースデー、夏・冬休みには子どもが参加できる講座を増やし、子どもたちの参加促進を図った。

会期：令和7年4月1日（火）～令和8年3月31日（火）

会場：クラフト工房（大・中・小制作室）、木工房、織工房、染工房、版画工房

講習会総実施回数：300回（前年度実績：329回）

講習会総受講者数：4,562人（前年度実績：4,466人）

ふらっと体験参加者数：1,901人（前年度実績：1,665人）

（織機でコースター体験を含む）

講習会は製作体験に留まらず実際に暮らしの中で使える内容で実施した。

市内の公園で剪定された季節の樹木で染色したり、北海道の羊毛を使った講習会を、他団体（札幌市公園緑化協会、えこりん村）の協力を得て企画し、地域の恵みを活用する講習会を開催した。また、美術館展覧会「コスチュームジュエリー展」にあわせて開催したジュエリーをモチーフにした七宝と金工の講習会は、美術館関連企画として好評を博した。夏・冬休みの時期には子どもを中心に、未経験でも楽しく参加でき、自由研究にも役立つメニューを工夫し、多くの親子連れなどで賑わった。

▼ アウトリーチ事業

①札幌市民交流プラザ2階 SCARTSスタジオにてアウトリーチを行い、陶器の絵付け、和紙のちぎり絵、木工キューブパズルなど、気軽にものづくりを体験できる場を提供するとともに芸術の森のPRを図った。

会期：令和7年10月4日（土）～10月5日（日）

会場：札幌市民交流プラザ2階 SCARTSスタジオ1・2

実施回数：1回（前年度実績：1回）

実施人数：69人（前年度実績：122人）

工芸分野の普及事業の一環として、交通アクセスの良い市内公共施設での制作体験の機会を創出した。芸術の森で講習会受講経験のない方にもものづくりの楽しさや芸術の森を紹介できた。

▽ その他の文化芸術事業

▼ 芸術の森アートマーケット

札幌芸術の森の園内を会場に、市民アーティストの相互交流や発表の機会の創出を目的に、様々なジャンルの手作りアート作品によるアートマーケットを開催した。

多くの出店者により賑わいを創出することができた。全6回開催の予定だったが、うち3回が雨天中止となり、全3回で延べ654名の入場者に足を運んでいただくことができた。

▽ 各種団体との提携による文化芸術の振興

▼ 各種団体との連携による文化芸術の振興

①各種団体共催・施設利用促進事業

入場者数：523人

芸術の森施設を活用し、各種団体との共催事業を実施。アートホールでの「Sapporo 未来 Jazz 2025」や、芸術の森の自然風景を生かしたコスプレイベントなどを共催により実施した。

共催事業として音楽事業のほか芸術の森園内を活用したイベントを実施し、芸術の森の魅力発信と文化事業振興に貢献した。

【本郷新記念札幌彫刻美術館】

▽ 展覧会事業

▼ 総入館者数10,871人

(本館7,722人、記念館3,149人)

● 特別展

【本館】

下記の展覧会を開催した。

①「没後50年 山内壮夫展」

会期：令和7年6月14日(土)～9月28日(日)
92日間

入場者数：1,804人

特別展の「没後50年 山内壮夫展」では、市内にも多くの作品がある彫刻家の札幌での初の回顧展として、その足跡を紹介するとともに、最新の研究成果を反映して、新たな評価につなげた。

②「札幌芸術の森開園40周年記念 彫刻三昧 札幌芸術の森美術館の名品50選」

会期：令和7年10月11日(土)～令和8年1月4日(日)
69日間

入場者数：886人

「彫刻三昧展」では、近現代の彫刻史に名を刻む著名な彫刻家による優れた作品を一堂に展示し、彫刻鑑賞の面白さを、時代による表現の推移とともに楽しめる機会を提供した。

③「札幌彫刻賞歴代受賞者パネル展」

会期：令和5年9月16日(土)～令和7年5月25日(日)
514日間(令和7年度48日間)

入場者数7,807人(令和7年度645人)

④「さっぽろ雪像彫刻展2026」

会期：令和8年1月23日(金)～25日(日)
3日間

入場者数：607人

「さっぽろ雪像彫刻展」では、雪まつりの雪像とは異なる雪を素材とした彫刻としての雪像を制作展示し、雪国ならではの展覧会とした。

⑤札幌芸術の森美術館コレクションロビー展示「追悼 國松明日香展」

会期：令和8年1月9日(金)～5月24日(日)
117日間(令和7年度70日間)

入場者数：1,420人

● アウトリーチ展示

①さっぽろ雪まつり出品「雪像彫刻 from 本郷新記念札幌彫刻美術館」

会期：令和8年2月4日(火)～11日(水・祝)
8日間

会場：さっぽろ雪まつり大通6丁目会場

入場者数：1,926,000人(第76回さっぽろ雪まつり大通会場来場者数)

また、さっぽろ雪まつりにおいても、雪像彫刻を5基を制作展示することで、国内外の多くの方にその魅力と当館の存在と活動を知ってもらうことができた。

● コレクション展

【記念館】

本郷新の代表作や野外彫刻の石膏原型などの常設展示を行った。

① 「コレクション展 2024-2025」

会期：令和6年6月1日(土)～令和7年5月25日(日)

295日間(令和7年度48日間)

入場者数：4,031人(令和7年度505人)

② 「コレクション展 2025-2026」

会期：令和7年5月31日(土)～令和8年5月24日(日)

303日間(令和7年度254日間)

入場者数：2,648人

【本館】

① 「本郷新生誕120年記念コレクション展 マンガでわかる本郷新」

会期：令和8年2月22日(日)～5月24日(日)

79日間(令和7年度32日間)

入場者数：335人

② 「コレクション展 本郷新 彫刻の設計図リターンズ」

会期：令和7年3月8日(土)～5月25日(日)

68日間(令和7年度48日間)

入場者数：793人(令和7年度645人)

● 貸館事業

① 北の美大展

会期：令和8年1月11日(日)～25日(日)

13日間

主催：北の美大展実行委員会

入場者数：460人

② 北海道教育大学 芸術・スポーツ文化学科 美術文化専攻 教員展 season1

会期：令和8年1月31日(土)～2月15日(日)

14日間

主催：北海道教育大学 芸術・スポーツ文化学科 美術文化専攻

入場者数：271人

コレクション展では、本郷新をさまざまな切り口で紹介し、その魅力を多くの人に知ってもらうことができた。

記念館では、手の表現や建物に注目した展示を加えたほか、映像コーナーを新設した。

本館では、「マンガでわかる本郷新展」において、伝記マンガの出版に合わせ、その名場面と関連作品や資料を展示することにより、本郷新が作品に込めた思いなどを、わかりやすく伝えた。また、作成した伝記マンガを市内小学校に無料配布した。

若いアーティストや大学教員に発表の場を提供し、学芸的なサポートを行うことで、質の高い展示に結びつけるとともに、発表における企画や広報の重要性を認識してもらい、今後の活動に役立つものとした。

▽ 本郷新の業績を顕彰することを目的とした事業

▼ 本郷新記念札幌彫刻賞（第4回）

- ・受賞作品展示

会期：令和6年6月29日（土）～令和9年4月

会場：札幌芸術の森美術館中庭

▼ 子どもへの本郷新周知事業

- ・伝記マンガ「本郷新伝」出版
- ・トークイベント「マンガで伝える彫刻家本郷新の思い」

会期：令和8年3月21日（土）

会場：札幌市民交流プラザ

参加者数：75人

▼ 本郷新の調査研究

- ・本郷新の自著文献のデジタル化
- ・本郷新関係の文章の執筆、寄稿
- ・コレクション展、土曜講話などでの研究成果の発表

受賞作品を美術に興味をもつ市民が多く訪れる美術館に展示することで、本郷新やこの賞について広く知ってもらうことにつながった。

本郷新の生誕120年を記念して伝記マンガを出版し、市内の各学校に配布することで、次世代を担う子どもたちに、本郷新の芸術を末長く楽しみながら知ってもらえるものとした。

関係資料などをもとに本郷新についての研究をさらに深め、展覧会や講話、寄稿を積極的に行った。

▽ 彫刻を中心とした美術に関する講座等の実施に関する業務

● 彫美連続講座

実施回数：3回

参加者数：267人（会場聴講205人、オンライン聴講62人）

会場：札幌市民交流プラザ（オンラインでも配信）

● 造形教室

- ・夏休み造形教室

参加者数：13人

- ・冬休み造形教室

参加者数：15人

● 館長と学芸員の日曜講話

実施回数：16回

参加者数：404人

● 札幌おしゃべり美術部

実施回数：3回

参加者数：13人

彫美連続講座において、彫刻に関するタイムリーで話題性に富んだ内容を取り上げることで、多くの参加者を集めることができた。彫美連続講座のオンライン配信も好評であった。また、「館長の日曜講話」を頻繁に行うことによって、彫刻に対する理解とともに、当館に対する愛着を深めることができた。

「札幌おしゃべり美術部」では、作品をじっくりと観察したうえで、報告レターをつくるまでを行い、深い鑑賞につなげることができた。

▽ その他彫刻美術館の設置目的を達成するための事業

▼ 促進事業

● サンクスデー

実施回数：2回

入館者数：446人（夏163人、秋283人）

▼ 学校協力

● 学芸員資格取得希望の大学生を対象とした博物館実習（館園実習）の受け入れ

参加学生数：大学生10人（7日間）

● 北海道大学における当館リノベーション課題のための現地少佐対応

参加学生数：53人

● 札幌西高等学校美術選択1年生展覧会鑑賞

参加生徒数：91人

● 札幌市立啓明中学校職場体験の受け入れ

参加生徒数：7人

● 札幌市立宮の森中学校3年生展覧会観覧

参加生徒数：45人

▼ ボランティア活動の受け入れ

「ハロー！ミュージアム」で児童への鑑賞指導を行うボランティア（協力員）を受け入れ、実際の活動と事後の研修を行った。また、本郷新の自著をデジタル化する作業を「資料整理ボランティア」の協力のもと行った。

▼ 連携事業

財団他施設との連携

・札幌文化芸術交流センター SCARTSとの連携

「彫美連続講座」の実施

・札幌芸術の森美術館との連携

第4回本郷新記念札幌彫刻賞受賞作品の展示

「彫刻三昧」における芸術の森美術館収蔵品の展示

サンクスデーでは、展覧会観覧料を無料にするだけではなく、札幌彫刻美術館友の会、札幌アートコミュニケーターズなどの協力を得てさまざまなプログラムを実施することで、多くの来場者を迎え、当館の魅力を広く知ってもらう機会となった。

また、近隣の小中高に積極的に働きかけ、来館してもらう機会を増やした。

さらに、ボランティアに活動の場を提供した。

財団内の施設間連携では、単なる場所の提供だけではなく、それぞれの職員の能力を生かした協力関係のもと、事業を実施した。

(5) 施設利用に関する業務

▽ 利用件数等

【札幌芸術の森】

・施設の利用状況

		R 6 実績	R 7 計画	R 7 実績
アートホールアリーナ	件数(件)	233	240	203
	人数(人)	26,161	20,448	19,398
	稼働率(%)	65.3	67	67.9
アートホール練習室	件数(件)	2,293	2,219	1,986
	人数(人)	15,827	15,735	13,904
	稼働率(%)	64.2	62	65.7
野外ステージ	件数(件)	36	40	12
	人数(人)	16,223	13,258	3,372
	稼働率(%)	19	21.4	13.2
各種研修室	件数(件)	3,665	3,647	3,988
	人数(人)	4,582	4,451	5,042
	稼働率(%)	72.1	70.8	79.6
各種窯	件数(件)	302	305	413
	人数(人)	302	305	505
	稼働率(%)	33.7	32.5	34.9
各種アトリエ・ロッジ	件数(件)	217	223	265
	人数(人)	1,370	1,475	1,946
	稼働率(%)	15.7	16.4	19.6
駐車場	件数(件)	51,574	66,988	41,600

・入場者数

(人)

		R 6 実績	R 7 計画	R 7 実績
総入園者数		325,612	500,000	246,529
	芸術の森美術館	123,103	170,000	77,479
	芸術の森野外美術館	52,740	60,000	39,429

▽ 不承認 0件、取消し 23件、減免691件、還付 23件

▽ 利用促進の取組

大規模改修工事に伴い、野外ステージとアートホールが休館したため、野外ステージがおよそ3か月間、アートホールが2か月間、例年より稼働期間が少なかった。そのため、件数や人数は前年度を下回るものの、稼働率は多くの施設で昨年度と比較して上昇している。

過去におよそ8万人が入場し、今回も多くの入場を見込んでいた「藤城清治展」が中止となり、代替として「0さいからのげいじゅつのもり」を開催した。これに伴う園内各施設への入場者数の減少や、令和6年度に匹敵する大規模な貸館イベントの開催がなかったことにより、総入園者数はおよそ25万人に留まった。

A B C D

札幌芸術の森では、主要な展覧会の中止や野外ステージ等の大規模改修工事に伴う休館の影響により、総入園者数が目標を下回る約24.6万人となった。

また、彫刻美術館でも、特別展の集客に課題を残し来館者数が目標を下回った。

芸術の森においては、多くの集客を見込んでいた「藤城清治展」の中止など予期せぬ外部要因や休館といった影響で前年度に比べ利用は減ったものの、一方で、改修のあったアートホールをはじめ、釜やアトリエ・ロッジなどの稼働率が前年より増加していることや、野外美術館の謎解きイベントで社会包摂を意識したプログラムを導入したほか、冬季の誘客促進として「芸森かんじきウォーク」を開催するなど、集客に向けた工夫を行っている。

彫刻美術館においては、本館の展覧会数が増加していること

札幌芸術の森や文化芸術に気軽に親しんでもらうこと、来園者増を目的としたイベントを5事業開催した。

①スプリングフェスタ（札幌市立大学公開講座「札幌芸術の森 自然観察会」）

②芸森バースデー2025(札幌ドラムサークルワークショップ・札幌ジュニアジャズスクール SJF Junior Jazz Orchestra バースデースペシャルライブ)

③野外美術館謎解きイベント「時紡ぐミュージアムの約束」、「五感であそぶ謎解き 招かれざる客～消えた彫刻の行方～」

④芸森かんじきウォーク

⑤芸術の森地区 雪あかりの祭典

▼ 11月より新施設予約システムを導入し、札幌芸術の森・コンサートホール・札幌市民交流プラザの空き情報が確認可能となり、施設を横断的に確認できるようになった。また、利用者自身が申請状況を「マイページ」で確認可能となった。

恒例の四季イベントに加え、札幌市立大学との連携事業として、野外美術館を散策しながら園内の自然を観察する「札幌芸術の森 自然観察会」を開催した。

また、毎年開催している野外美術館での謎解きイベントについて、従来のコンテンツに加え、社会包摂を意識した「五感であそぶ謎解きシリーズ」を新たに開催したほか、冬季の誘客促進として、開園当初より開催している「かんじきウォーク」を実施し、多くのインバウンド観光客も参加した。

や、無料開館日の「サンクスデー」、新たなイベントの実施、キャッシュレス決済の導入など、利用促進に積極的に取り組む姿勢が見られた点は評価できることから、本市の要求水準を満たすものと判断できる。

【本郷新記念札幌彫刻美術館】

・施設の利用状況

展覧会事業		R 6 実績	R 7 計画	R 7 実績
本館 展示室	展覧会件数	6	6	7
	開館日数	245	275	241
記念館	展覧会件数	2	2	2
	開館日数	295	302	302
本館入館者数		12,399	9,000	7,722
記念館入館者数		3,962	5,000	3,149

その他事業		R 6 実績	R 7 計画	R 7 実績
本館展示室利用	利用件数	1	0	2
	利用日数	17	0	32
本館 研修室利用	利用件数	1	0	1
	利用日数	1	0	1
本館 屋外利用	利用件数	1	1	1
	利用日数	1	1	1

▽ 不承認0件、 取消し0件、 減免0件、 還付0件

▽ 利用促進の取組

「サンクスデー」として年2回無料開館し、ものづくりやオリジナル飲食物販売など楽しめるプログラムを実施し、幅広い層の来館を促す工夫をした。

キャッシュレス決済を導入し、多様な支払方法に対応した。

伝記マンガを作成し、市内小学校へ無料配布した。また、伝記マンガの出版に合わせ、その名場面と関連作品や資料を展示することにより、本郷新が作品に込めた思いなどをわかりやすく伝える展覧会を開催した。

本館・記念館とも、目標の入館者数を達成することができなかった。要因は、特別展ごとに異なる入館者の層をうまく集客できなかったことである。

その他事業では、近隣の学校の来館があったことに加え、大学の授業の課題としての活用に協力した。

。本館屋外利用は、雪像彫刻展の制作・展示である。

キャッシュレス決済により、インバウンドなどの需要に応えた。

(6) 付随業務	▽ 広報業務		A B C D
	【札幌芸術の森】 ▼ 広報の充実 園内の各施設の担当者が集まり広報会議を定期的に行い、施設や課、係それぞれが携わる様々な事業について情報を共有し、積極的な情報発信を図った。 ▼ ホームページによる情報発信の充実 インバウンド向けのかんじきウォーク特設Webサイトを開設し、海外からの来園者に向けて、より充実させた内容を発信した。また、季節にあわせてトップページのメイン写真を変更し、自然を含む芸術の森の魅力を伝えた。 サッポロ・シティ・ジャズやバレエセミナー等の情報量が多い事業は、引き続き個別のホームページを設け、ターゲットを絞った情報発信を行った。 ・ホームページアクセス数 1,534,550件 (参考) 令和6年:1,824,987件 ▼ その他SNSによる情報発信の充実 X、FacebookやInstagramでリアルタイムの情報発信を行った。 ▼ ニュースリリースによるマスコミへの情報提供 毎週、市政記者室をはじめマスコミ、事業関係者などに、芸術の森の最新情報をリリースする「今週の芸森。」をメールマガジン形式で配信するとともにホームページに掲載し、スピーディな情報発信に努めた。 ▼ ウェブアクセシビリティ取組内容確認を実施し、令和8年2月19日にホームページに公開した。 【本郷新記念札幌彫刻美術館】 ▼ 通常のホームページ運営に加え、FacebookやXなどのSNSでのこまやかな情報発信に努めた。事業ごとにターゲットを絞ったSNS広告を随時行い、効果的なコミュニケーションを試みた。また、宮の森地区連合町内会、近隣小学校へのチラシ配布を通じて地域住民への広報に積極的に取り組んだ。 ホームページアクセス数:29,795件 (参考) 令和6年:21,140件 Facebookフォロワー数:1,423件 (参考) 令和6年:1,339件 Xフォロワー数:4,976件 (参考) 令和6年:5,015件 芸術の森との連携により、広報ツール(ニュースリリースや情報紙もりくる)の共有も行っている。 ▼ ウェブアクセシビリティ取組内容確認を令和8年1月20日に実施し、結果をホームページに公開した。 ▼ ホームページの管理・運営にあたっては、日本工業規格JIS X 8341-3:2016の適合レベルAAに準拠するとして「ウェブアクセシビリティ方針」を定めて公開し、利用者の立場に立った情報の提供に努めている。また、同方針に基づいた運用試験を着実にを行うよう準備を進めている。 ▼ 美術館のポスターを制作し、近隣施設や関係各所に掲示を依頼しを行った。 ▽ 引継ぎ業務 (前回から継続指定のため、引継業務なし)	InstagramをはじめSNSの更新頻度を高め、イベントだけではなく日常的な園内の情報発信に努めた。また、定期的な広報会議によって園全体での外部の広報媒体の活用や連携したホームページ、SNSの発信を行った。 SNSの活用によりこまめな情報提供や、ターゲットを絞った広告展開ができた。地域住民への広報に引き続き注力し、地域での認知度を高めることができた。プレスへの直接的な働きかけを地道に行い、事業や取組を記事として取り上げてもらうことができた。美術館のポスターを各所に手持ちし、直接の周知活動を行うことができた。	両施設とも、ホームページでの情報提供のほか、SNSを積極的に活用して施設の魅力やイベント情報を発信している。 札幌芸術の森では、SNSの更新頻度を高めて日常的な情報発信に努めたほか、インバウンド向けの特設サイトを開設するなど、ターゲットに応じた工夫を凝らしている点は評価できる。 札幌彫刻美術館では、近隣へのチラシやポスターによる地域広報に注力しつつ、ターゲットを絞ったSNS広告を展開し、効果的な周知を行った。 以上のとおり施設の魅力を伝える広報活動を行っていることは高く評価でき、本市の要求水準を満たすものと思われる。

2 自主事業その他

▽ 自主事業

【札幌芸術の森】

▼ 札幌の文化芸術発信事業 サッポロ・シティ・ジャズ2025

※音楽・舞台芸術事業再掲

札幌の観光文化事業を担う独自のジャズイベントとして開催19回目を迎えた。ジャズの街さっぽろを国内外に発信し、都市のブランド力を高め、観光資源の創出を図るとともに、ジャズによる人材育成や市民参加活動の促進など、魅力ある街づくりに繋がる様々な事業を実施した。

札幌美術展 下沢敏也 origin-土の命脈

会期：令和7年9月13日（土）～11月3日（月・祝）52日間

入場者数：4,742人

陶によるインスタレーション作品を20年以上にわたり展開する下沢敏也の個展を開催。従来の陶表現を越え、生命の果てゆく姿と、その残り火の中から再び生れ出ようとする予感が静謐さのなかに充溢するインスタレーションなど39点を展覧し、北海道の陶土を素材に独自の技法を探究する下沢が挑む、造形表現の今に迫った。

▼ 子どもの文化芸術体験事業「ハロー！ミュージアム」

期間：令和7年4月25日（金）～令和8年2月19日（木）

会場：札幌芸術の森美術館、札幌芸術の森野外美術館、札幌芸術の森園内（有島武郎旧邸を含む）、本郷新記念札幌彫刻美術館

参加児童数：計13,539人

参加学校数：計192校

活動回数：計198回

【芸術の森美術館おはなしコース】47校50回

【美術館周辺おさんぽコース】22校22回

【野外美術館おはなしコース】65校65回

【野外美術館たんけんコース】51校51回

【彫刻美術館おはなしコース】7校10回

札幌市の小学5年生（特別支援学校小学部含む）を札幌芸術の森もしくは本郷新記念札幌彫刻美術館に招待し、鑑賞活動の楽しさを体験する5つのプログラムを実施。活動前に各学校の教員を対象とした会場見学会を実施し、各コースの会場において事業内容や活動場所の見学案内を行った。また、今年度はプログラム内容を見直し、受け入れ人数に制約のある「子どもアトリエコース」を終了し、新たに「美術館周辺おさんぽコース」と「野外美術館たんけんコース」を増設し、活動の充実化を図った。

音楽・舞台芸術事業
「札幌の文化芸術発信事業 サッポロ・シティ・ジャズ2025」と同じ。

展覧会事業③と同じ

学校の実態や事業の効率化の観点に基づいてプログラム内容の見直しを行った。受け入れ人数に制約のある「子どもアトリエコース」を終了し、美術館の展示替え休館中及び土曜日の受け入れプログラムとして「美術館周辺おさんぽコース」、スタッフがつかずに学校が主体的に活動内容を設計できる「野外美術館たんけんコース」を増設。芸術の森園内の施設や作品を十分に活用し、活動の充実化を図った。長年の事業継続によるノウハウの蓄積により、子どもたちが芸術文化に親しみ、創造力を育む機会を安定的に提供できている。

A B C D

自主事業の承認内容を網羅している。芸術の森のビュッフェレストランでは札幌近郊の食材を取り入れたメニューを提供しているほか、ミュージアムショップでは地域作家の作品を展示・販売するなど、地元の魅力をPRする取組を行った。

彫刻美術館ではオリジナルコーヒーなどの商品開発やグッズ販売を行うなど、施設に愛着を持ってもらえるような取組を行っている。

市内の小学5年生を対象に実施している「ハロー！ミュージアム」事業においては、プログラム内容を見直し、新たに「美術館周辺おさんぽコース」と「野外美術館たんけんコース」を増設して活動の充実化を図るなど、継続事業においてもより良い運営に向けた改善が重ねられているといえる。

その他、業務委託時に地元企業や福祉施設の活用を意識的に行っており、地域社会への貢献に努めている。

以上より、本市の要求水準を満たす自主事業が展開されている。

リフレクションズーいつかの光 会期：令和7年11月15日（土）～12月21日（日） 32日間 入場者数：2,339人 北海道ゆかりの5組の作家による現代美術展。眼前の風景や自然現象を鋭敏に知覚し、絵画、彫刻、写真、映像、音響などそれぞれの手法で表わした作品群を展覧し、世界を捉えるあらたな視点を提示した。 出品作家：青木陵子＋伊藤存、池田光弘、国松希根太、野口里佳、平川紀道 ▼ レストラン事業 センター2階の野菜を中心にしたビュッフェレストラン「ごちそうキッチン 畑のはる」では、北海道産、とりわけ札幌近郊の食材を取り入れたメニューを提供。冬季間はテイクアウトメニューを提供した。（利用者：15,002人） ▼ 売店事業 ミュージアムショップPolaireを美術館が直接運営し、展覧会関連グッズ及び図録はもちろん、地域作家の作品やグッズの販売も行うことで、地域の美術文化を常に発信するという側面もあわせ持たせて運営している。令和4年にはオンラインショップを開設し、令和5年度からは地域作家の作品のオンライン販売も開始した。また、館蔵品をモチーフとしたオリジナルグッズも製作し、販売した。 【本郷新記念札幌彫刻美術館】 ▼ 自動販売機を設置し、来場者の利便性向上に努めた。 ▼ オリジナルコーヒーなどの商品開発、本郷新に関する受託商品の販売を行った。 ▽ 市内企業等の活用、福祉施策への配慮等 【札幌芸術の森】 ▼ 例年同様、令和7年度も各種保守点検、修繕業務などの再委託については、その大部分を市内の企業に発注している。また、高齢者就労支援業者（シルバー人材センター）に受付業務の一部を委託した。また、福祉施設の活用として、札幌芸術の森美術館で開催される展覧会等の広報印刷物の封入作業や作業着等のクリーニングを、近隣の就労支援施設に発注している。 【本郷新記念札幌彫刻美術館】 ▼ 業務委託等は市内の企業を活用した。	展覧会事業④と同じ 道産を中心とした食材にこだわったレストランメニューは、幅広い世代に好評だった。 展覧会の内容や取扱グッズのリサーチを行い、展覧会に関連したグッズを販売すると共に地元アーティストの作品やグッズの販売を行うことで来館者の楽しみを増やし、地元アーティストの活動支援にも繋がった。また、オリジナルグッズ開発では、所蔵品をモチーフに使用しグッズを通じて美術館作品の周知に繋げることが期待できる。 来場者が持ち帰ることができる商品を用意することで、サービスの有形化を図った。 業務の再委託については、可能な限り市内企業に発注することを徹底した。福祉施設等の利用についても積極的に取り組むことができた。
--	---

3 利用者の満足度

▽ 利用者アンケートの結果

【札幌芸術の森】

実施方法	令和7年4月～令和8年3月 施設・事業毎のアンケート用紙を作成し配布。
結果概要	回答5,587件 (施設利用者アンケート262件、事業アンケート5,325件) 施設に対する総合的な満足度は95.1% (「とても良い」、「良い」、「普通」の合計)と、前年度より「とても良い」が増え、満足度を維持できた。職員の接遇に対する満足度については94.8% (「とても良い」、「良い」、「普通」の合計)と、例年と同様の数値を維持できた。 いただいた意見や要望については、常駐業者も含め関係者に情報共有し、可能なものから都度迅速に対応するように努力した。
利用者からの意見・要望とその対応	利用者からの意見や要望に関しては、職員間で情報を共有し、その都度迅速に対応したほか、ホームページ上で対応等含め閲覧できるように対応した。 意見・要望については別添のとおり

【本郷新記念札幌彫刻美術館】

実施方法	無記名の記入方式 (通年)
結果概要	回答584件 来館者の接遇に対する総合的な満足度は約98.6% (「大変良い」、「まあ良い」、「普通」の合計)、施設についての満足度は約98.3% (「とても満足」、「まあ満足」、「普通」の合計)と、総じて高い評価を得ることができた。
利用者からの意見・要望とその対応	【要望】お客さんの場所で打ち合わせをしていて、話し声が気になった。 【対応】展示室で打合せをすることがあった。やむを得ず展示室内で打合せをする必要がある場合は、他の来館者への気配りをするよう徹底した。 【要望】足が悪い人は階段の乗降ができない。スロープやエレベーターが無いことを事前に知らせてほしい。 【対応】施設の特性上、足が悪い人にとっては観覧が難しい場所がある。排除することはできないので、ホームページでお知らせをしたが、改めて可能な対応方法と告知の方法を検討中である。

札幌市の要求水準である5,000件を回収することができた。しかしながら令和7年度は昨年度を下回る回収率となった。2月よりアートホールの改修工事に伴う休館、また、美術館事業における予定していた人気の展覧会が中止になったことも一因として考えられる。また、Webアンケートを取り入れアンケートの収集に努めているが、R7年度施設アンケートの回答9件と大きな効果は得られなかった。引き続き要求水準達成に向けて努力する。職員の接遇及び施設については高い評価を得ることができた。展示内容については、利用者からの意見・要望もふまえ、今後もより充実した内容にできるよう努める。

多くの方に回答を頂くことが出来た。引き続き、来館者の期待に応えるように工夫していく。障害者対応については、施設の特性を、合理的配慮としてどのように対応すべきかを整理する必要がある。

A B C D

芸術の森では要求水準の5,000件を上回る5,587件の回収が行われたが、彫刻美術館は要求水準800件を下回る584件の回収となった。

しかしながら、両施設とも「総合的な満足度」及び「職員の接遇についての満足度」は概ね95%前後という高い水準を維持しており、本市の要求水準を大きく超えている。

以上のことから、本市の要求水準を満たすものと思われる。

4 収支状況

▽ 収支

(千円)

項目	R 7 年度計画	R 7 年度決算	差 (決算-計画)
収入	889,706	893,917	4,211
指定管理業務収入	859,592	851,080	▲ 8,512
指定管理費	703,476	729,269	25,793
利用料金	58,448	45,806	▲ 12,642
その他	97,668	76,005	▲ 21,663
自主事業収入	30,114	42,837	12,723
支出	974,706	983,541	8,835
指定管理業務支出	934,896	919,684	▲ 15,212
自主事業支出	39,810	63,857	24,047
収入-支出	▲ 85,000	▲ 89,624	▲ 4,624
利益還元			0
法人税等			0
純利益	▲ 85,000	▲ 89,624	▲ 4,624

▽ 説明

▼ 指定管理費については、札幌市による委託費及び光熱費の高騰に伴う補填や、アートホール及び野外ステージの改修工事に係る移転費補填を受けたこと、また賃金スライドにより増収となった。

▼ 利用料金収入の内訳は、主に野外美術館観覧料、工房等利用料、駐車場利用料である。最大の減少要因は、駐車場利用料収益の落ち込みであり、美術館展覧会の入場者数が伸び悩んだことに加え、アートホール及び野外ステージの休館に伴う利用者数の減少が影響した。

▼ その他収入には、講習会受講料、企業協賛金、他団体からの助成金に加え、実行委員会を構成して実施する事業に係る決算剰余金の配当が含まれる。美術館における入場料収益や事業課主催事業における受取負担金収入が減少したことにより、計画を下回る結果となった。

▼ 指定管理業務支出について、人件費や光熱費の大幅な高騰により支出が増加したものの、これを補うために公的補助金や民間助成金の獲得を行った。

▼ 自主事業については、Reflections展に係る資材費・作品賃借料や輸送費の高騰、また入場者数不振により、計画に対して支出が増加した。

収入については、総入園者数の減少により、利用料金収入が不調であったが、札幌市による補填及び文化庁助成金の獲得により、全体としては計画比で良好化している。

支出においては、人件費や光熱費の高騰を受け、支出は増加したが、これを補うために公的補助金や民間助成金の獲得を行い、収支の回復に努めた。

A B C D

人件費や光熱費の高騰により支出が増加し、計画比で8,835千円の増となったが、企業協賛金や文化庁助成金等の獲得による収入向上に努めることで、収支の回復を図った点は評価できる。

総入園者数の減少に伴い、駐車場等の利用料金収入が伸び悩むと、収支状況の悪化に直結するため、より集客性の高い事業を開催するなど利用料金収入や自主事業収入の向上を図る必要があるが、今回はアートホール、野外ステージの改修工事や展覧会の中止などによる影響を受け、一時的に入場者数が悪化したものと判断する。

<確認項目> ※評価項目ではありません。

▽ 安定経営能力の維持

当団体の財務状況等は、債務超過、累積欠損の状態になく、自己資本比率が50%以上等のため、経営の健全性が保たれており、安定経営能力が維持されている。

適 不適

▽ 個人情報保護条例、情報公開条例、行政手続条例、オンブズマン条例及び暴力団の排除の推進に関する条例への対応

- ▼ 各条例の規定に則り、全て適切に対応した。
- ▼ 情報公開請求は、札幌芸術の森に対し7件あったが、全て情報提供へ切替となった。
- ▼ 住民監査請求はなかった。
- ▼ 暴力団関係については、案件は生じなかった。

適 不適

III 総合評価

【指定管理者の自己評価】	
総合評価	来年度以降の重点取組事項
【札幌芸術の森】 令和7年度の総入園数は、多くの入場を見込んでいた藤城清治展の中止や野外ステージの改修工事により、約24万6千人にとどまった。一方で、野外美術館謎解きイベントにおいて、身障者や日本語を母語としない方向けの社会包摂プログラムを開始した他、冬季のかんじきウォークでは、外国人向けの特設Webサイトをホームページに開設し、インバウンド需要の取り込みに成果を上げた。 音楽・舞台芸術事業では、19回目となる「サッポロ・シティ・ジャズ」を開催し、一年を通じ多彩なライブを展開した。また、次世代育成では、札幌ジュニアジャズスクールの国際交流事業として、中学生クラスがノルウェー・オスロ市を訪問し、各国から参加した子どもたちと交流を深めたほか、札幌芸術の森パレエセミナーでは、世界的な指導者を招へいし、全国から受講生が集まった。 美術館では、気鋭の作家・小松美羽の作品展や北海道を代表する陶芸家・下沢敏也の作品展を開催し、多くの方々にお楽しみいただいたほか、令和8年度の開園40周年に向け、野外美術館を会場に、ライブペインティングやピアノコンサートを実施した。 工芸・工房事業では、工芸館にて、道内の工芸作家46名の作品を展示・販売したほか、陶芸・染織など7つの分野で講習会を開催し、約4千5百人が参加した。また、北海道陶芸協会との共催で、6年ぶりに登り窯を活用して作品の焼成・展示を行った。 この他、新施設予約システムの導入により利用者の利便性向上を図ったほか、安定的な施設運営を目的とし、令和7年4月より屋内美術館特別展料金の上限改正、野外美術館観覧料の改定、令和8年1月より貸施設の利用料金改定を行った。工房施設では利用者との意見交換会を実施し、利用上の課題を整理した。	第5期指定管理の運営に係る基本方針に基づき各種事業を実施する。特に開園40周年記念事業を中心に広く周知を行うとともに、野外美術館への入館促進のため、野外美術館謎解きイベントの新規コンテンツ導入や彫刻作品の解説ツールの多言語化を進め国内外の来園者を取り込む。 令和7年度から園内各施設の改修工事が順次実施されており、今後とも札幌市関係部署と適宜情報交換を行い、工事による利用者への影響を共有し、市民への適切な情報提供を行う。 昭和61年のオープンから40年が経過し、建物施設だけではなく外構の老朽化や荒廃が進んでいるため、これらについても札幌市と協議しながら安全で快適な空間の確保に努める。 また、団体利用者向けの無料送迎バスについては、ドライバー人件費等のコストが増加し、人材確保が困難になっていることに鑑み、段階的縮小を進める。他方、来園者の交通インフラの確保が課題となっていることから、近隣地域との連携を図りながら、公共交通機関の確保に向けた取り組みを進めたい。 改めて、安定的な施設運営と持続可能なサービス提供のため、管理体制の見直しを利用者ニーズとのバランスを図りながら進めていく。当財団が管理運営している他施設や民間組織との連携を図ることで、芸術の森だけでは成し得ない企画の立案や施設の効率的な活用を図っていくとともに、主催事業や上記利用促進策による収入の確保を図り、経費削減にも取り組む。
【本郷新記念札幌彫刻美術館】 入館者数については、特別展ごとのターゲット層に応じた集客に課題が残り、目標達成には至らなかった。 一方で展覧会事業においては、札幌初の回顧展となった特別展「没後50年 山内壮夫展」にて最新の研究成果を反映した新たな評価を提示した。さらに「彫刻三昧 札幌芸術の森の名品50選」展では、近現代彫刻の名品を一堂に展示し、時代による表現の推移を楽しめる機会を提供した。コレクション展「マンガでわかる本郷新」では、伝記マンガの出版と連動させることで作品に込めた思いをわかりやすく伝えるなど、当館所蔵品を多彩な切り口で紹介することができた。 教育普及事業では、札幌文化芸術交流センターSCARTSと連携した「彫美連続講座」が（オンライン配信を含め）好評を博したほか、「館長と学芸員の土曜講話」を頻繁に開催した。これにより、彫刻に対する理解の促進と、当館への愛着を深めるファン獲得に繋がった。 また、住宅街に位置する館の特性を活かし、年2回の「サンクスデー」を通じた地域住民への還元や、近隣小中高校の観覧・職場体験の積極的な受け入れ、大学の授業課題への協力など、学校教育との連携・協力を充実させた。 アウトリーチ活動としては、前年度に引き続き「第76回さっぽろ雪まつり」大通会場へ雪像彫刻5基を制作・出品し、国内外の多くの来場者に当館の存在を強力にPRした。館内での「さっぽろ雪像彫刻展2026」においても、雪を素材とした彫刻作品を制作・展示し、雪国ならではの冬の展覧会として定着させた。 施設の維持管理や運営面では、仕様書に基づく適切な業務遂行に	本郷新の顕彰、彫刻を中心とした文化芸術の振興という基本に軸足を置き、彫刻美術館の特色を生かした魅力ある事業展開に引き続き努めていく。 第Ⅴ期指定管理の方針に基づき、以下の取り組みを行う。 ・本郷新作品と関連資料の収集・保管、調査・研究、展示・公開を行い、その現代的な価値を引き出しながら、多角的に顕彰していく。 ・札幌、北海道ゆかりの彫刻家や、彫刻を核とする立体表現の多彩な動向にも視点を広げ、彫刻芸術を中心とした芸術文化の振興を図る。 ・子どもや若年層への普及、鑑賞・学習機会の創出など、幅広く市民の美術館利用や芸術活動への参加を促し、「次世代の芸術家の育成」という本郷新の遺志の実現を図る。 ・市民に開かれた施設運営を行い、近隣の学校や文化・商業施設、関係団体などとの連携を推進し、広く市民に愛される美術館を目指す。 来年度以降は、令和7年度の課題となった入館者数目標の未達成を真摯に受け止め、ターゲットを明確にした集客・広報戦略を展開するとともに、インバウンド等の多様な需要を取り込んでいく。また、伝記マンガ「本郷新伝」を軸に、学校現場等と連携しながら、次世代を担う子どもたちへの周知・普及事業をさらに発展させる。 さらに、大学や小中学校との連携により、地域に根差した美術館としての新たな魅力を発信する機会を創出していく。 次年度は、本郷新や北海道内の現代作家の作品を新たな切り口

加え、記念館への手摺設置や冬季の傾斜路対策など、利用者の安全・快適な環境確保に努めた。また、キャッシュレス決済の導入によりインバウンド等の利便性向上を図り、利用者アンケート等でも総じて高い評価を得ることができた。	で紹介する展覧会を開催するほか、本郷新記念札幌彫刻賞の次期募集選考を行う。
---	--

【所管局の評価】	
総合評価	改善指導・指示事項
両施設とも、全般的に本市の要求水準を満たしており、適切な運営管理がなされている。 芸術の森の総入園者数は、予定していた展覧会の中止や野外ステージの改修工事等により要求水準を下回ったが、謎解きイベントにおける社会包摂プログラムの開始やインバウンド需要を見据えた広報のほか、ジャズスクールによるノルウェー訪問などの国際交流、6年ぶりとなる登り窯の稼働、新施設予約システムの導入など、多彩な事業の展開や利用利便性の向上に取り組むことで、後年次の集客増加を期待できる点は評価できる。 彫刻美術館の入館者数は目標未達成となったが、伝記マンガ『本郷新伝』の出版に連動した展示、小中学校への配架による広報などの彫刻文化に対する市民への新たなアプローチに取り組んだことの成果がこれから現れることに期待する。 収支状況については、人件費や光熱費の大幅な高騰により支出が増加し、厳しい経営状況が続いているが、企業協賛金や文化庁助成金等の獲得による収入向上に努めることで収支の回復に努めた点は評価できる。安定的な施設運営を行っていくために、今後さらに集客性のある事業を開催することで利用料金収入や自主事業収入の向上を図るとともに、事業内容の見直し・効率化を図り、より一層の経費削減に取り組んでいただきたい。	両施設とも、全般的に本市の要求水準を満たしており、適切な運営管理がなされている。 芸術の森の総入園者数は、予定していた展覧会の中止や野外ステージの改修工事等により要求水準を下回ったが、謎解きイベントにおける社会包摂プログラムの開始やインバウンド需要を見据えた広報のほか、ジャズスクールによるノルウェー訪問などの国際交流、6年ぶりとなる登り窯の稼働、新施設予約システムの導入など、多彩な事業の展開や利用利便性の向上に取り組むことで、後年次の集客増加を期待できる点は評価できる。 彫刻美術館の入館者数は目標未達成となったが、伝記マンガ『本郷新伝』の出版に連動した展示、小中学校への配架による広報などの彫刻文化に対する市民への新たなアプローチに取り組んだことの成果がこれから現れることに期待する。 収支状況については、人件費や光熱費の大幅な高騰により支出が増加し、厳しい経営状況が続いているが、企業協賛金や文化庁助成金等の獲得による収入向上に努めることで収支の回復に努めた点は評価できる。安定的な施設運営を行っていくために、今後さらに集客性のある事業を開催することで利用料金収入や自主事業収入の向上を図るとともに、事業内容の見直し・効率化を図り、より一層の経費削減に取り組んでいただきたい。